宇和島のことばと「いのこ」について

1年1組　濱本　崇弘
1年1組　薬師寺　歩
1年4組　入船　太郎
指導者　教諭　渡部　陽子

１　課題設定の理由

高校生になり、中学校の時とは違って、会話の中で聞きなれない言葉がよく使われていることに気が付いた。自分たちの中学校で使われていなかった言葉に興味・関心を持つことになった。そこで、宇和島の近隣地域では、どのような言葉が使われているのか、また、同じ地域でも人によって使ったり使わなかったり、聞いたことすらなかったりしており、この機会に使用状況を調査してみることにした。

言葉以外にも、地域の特色が出ているものの一つに、「いのこ」という地域の行事がある。「いのこ」の仕方や使う道具にも地域差があるということが分かったので、調査していくことにした。

２　仮説

これまでの経験から、自分の日常生活の中で４０代以上の世代では方言をよく使うような印象がある。私たち高校生世代は、テレビなどのメディアに影響を受けやすいので、日常生活の中でも「標準語」に近い言葉でコミュニケーションを図っていることが多いのではないかと考えた。つまり、３０～４０代以上と１０～２０代の世代で、「方言」の使い方に違いが出てくるのではないかと予想した。

また、今回は宇和島を中心とした南予地域を調査対象とするため、アンケート調査の範囲が狭くなり、あまり差が出ないのではないかと考えた。「いのこ」に関しては、クラスでこの話題を出すと「おいのこをしていた」という声をあまり聞かないので、現在では「いのこ」を行う地域は少なくなっているのではないかと考えた。

３　実験・研究の方法

方言について書かれている本やインターネットから調べてみたい方言をいくつか取り出し、地域別にアンケートを取る。「いのこ」に関しては行うかどうか、使う道具は何かアンケートを取る。

４　結果と考察

(1)　結果

ア，使う　イ，使わない　ウ，自分は使わないが地域の人は使う　エ，聞いたことがない，

Ｑ１　こわす(両替するの意で使うか)

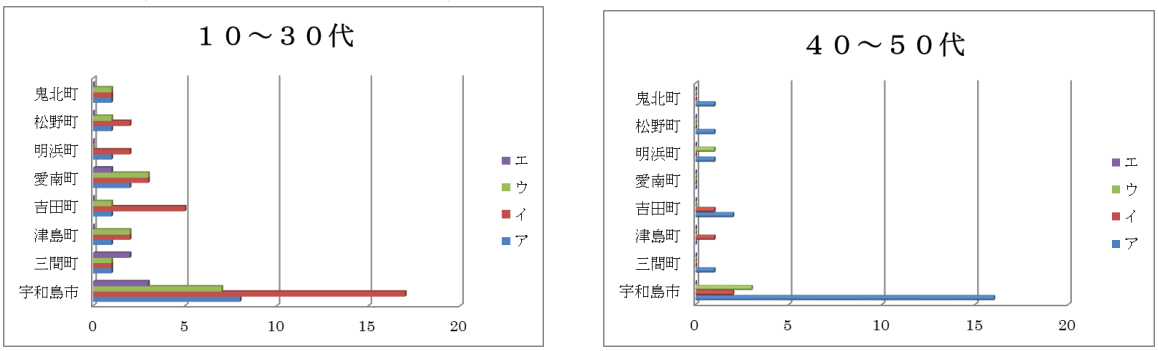
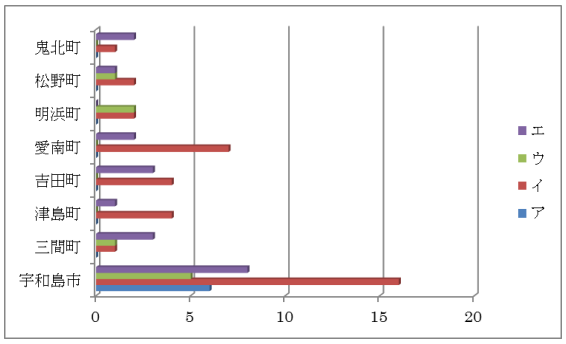


図1：アンケート調査結果①「こわす(両替するの意で使うか)」
（左）10代～30代　（右）40代～50代

Ｑ２　えらい(疲れるの意で使うか)

１０～３０代



４０～５０代

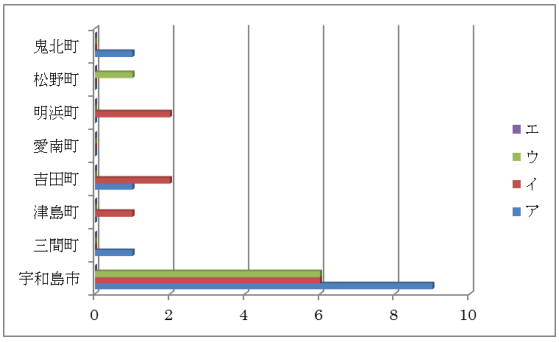
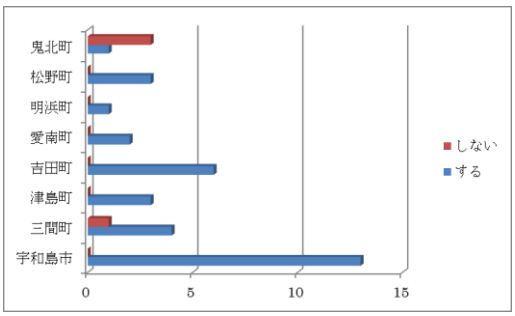


図2：アンケート調査結果②「えらい(疲れるの意で使うか)」
（左）10代～30代　（右）40代～50代

Ｑ３　いのこをするか、しないか

※「いのこ」とは旧暦 10 月（亥の月）に収穫祝いとして行われるもので、いのこ歌を歌いながら石や藁で作った棒をついて近所の家々をまわる行事である。

１０～３０代



４０～５０代

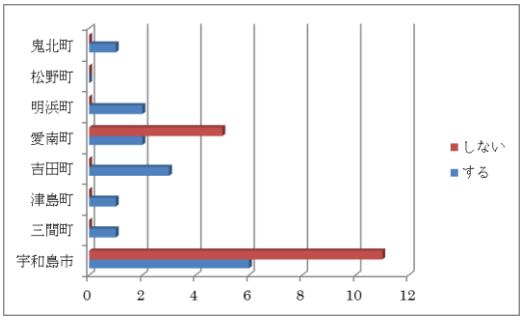


図3：アンケート調査結果②「いのこをするか、しないか」
（左）10代～30代　（右）40代～50代

(2)　考察

Ｑ１では４０～５０代で「使う」と回答した人が多いいことから予想したように若い年代はあまり方言を使わず、年配の世代が方言を使う傾向がでていることが分かる。

Ｑ２から宇和島以外の地域では「えらい」はあまり使われない傾向がある。

Ｑ３に関しては意外にも行う地域が多く、その際に使用する道具のほとんどは石であった。石が使われる理由は、「神霊の降臨する神座であったからであろう」(『愛媛県史　民俗下』)とある。石以外の道具としては、鬼北町の近永地区は藁でつくった棒状のものを、明浜町田野浜では笹竹を使っていることが分かった。石、藁、笹竹などがなぜ使われるようになったのか調べてみると、地域性が出てくるかもしれない。

５　まとめと今後の課題

今回のアンケートでは６０代以上の方の回答が少なくグラフ化がうまくいかなかった。今後またこういうことをする機会があるならきちんとアンケートを集めより、正確な結果を出せるようにしたい。

参考文献

・新不明解・宇和島語辞典　宇和島方言集　http;//tack7.fc2web.com/kotoba/kotoba02.html
・明浜町役場　昭和６１年　明浜町誌
・愛媛新聞社　昭和６０年　愛媛県百科大事典上巻
・愛媛県生涯学習センター　「えひめの記憶」－『ふるさと愛媛学』調査報告書